



夏休みの「子どもの広場」で高校・大学生が大活躍!

今年も猛暑の中、文京区の小学生たちが「みんな集まれ!! 子どもの広場」でセミの抜け殻調べや自然観察を楽しみました。ここでは、お茶の水女子大学や文京学院大学のインターンシップ生、都立小石川高校のボランティアの学生が大活躍しました。代表の「活動リポート」を紹介します。

お茶の水女子大学1年 田中日奈子、赤坂美紀

7月26日と8月2日の2日間、「子どもの広場」のプログラムで「セミの抜け殻調査会」が行われ、私たちインターン生もお手伝いとして参加しました。このプログラムは、参加者に身近な自然に目を向けてもらうきっかけにいただき、さらにはセミではなく「抜け殻」を採集することで生態への影響を与えずに、地域の自然環境の変化を知ることができます。

小石川植物園で行われた第1回目では、30人以上の子どもたちと保護者の方に参加していただきました。NACOTの自然観察員の指導のもと、6グループに分かれてセミの抜け殻探しスタート。ほどなくして「あっ、あった!」「これってなんのセミ?」と、大人も子どもも関係なくすっかり夢中に。セミの抜け殻は木の幹の低い所や、葉っぱの裏にもあるため、目線の低い子どもたちの方が見つけやすいようです。子どもたちは、セミの抜け殻以外にも、トカゲやミズズ、クワガタなどの生き物を発見しては大はしゃぎ。集まった何百もの抜け殻はみんな協力して、種類、性別を調べて集計しました。

2回目はJR四谷駅から市ヶ谷駅間の外堀公園で。この日はTBSラジオの「ラッキィ池田」さんと、東京ケーブルネットワークの「たばちゃん」が取材に来て一緒に調査をしました。一回目の調査とは異なり、葉の裏や下草の裏にアブラゼミやミンミンゼミの抜け殻が数多くありました。2回目の調査の集計後、1回目の調査結果と比較し、時期や場所よりの違いを発見しました。

私たちにとって、都会の中にこんなにも自然が残っているのは驚きでした。この調査会で垣間見えた子どもたちの興味・関心が、身近な自然を守ろうとする意識や行動につながると思います。

都立小石川高校1年 高木 彩佳

私たちは高校の授業の為、セミの抜け殻採取の奉仕活動をするようになりました。子供が大好きで、自然にも触れることの出来るものがやりたいと、セミの抜け殻採取に参加させていただきました。しかし本当は私にとってセミは苦手な存在で、実際に採取前の私はセミの知識は全くありませんでした。こんな自分でも役に立つものかと不安でした。

7月26日、小石川植物園で1回目の抜け殻採取に参加。この奉仕活動の大きな仕事は集計の手伝いと採取の手伝いですが、大変なことが起きました。以前ほど苦手意識も無く、躊躇なく採ることが出来ました。また子供たちに気を配り、見守り、本当にこれで奉仕活動かと思うぐらい楽しくやらせていただきました。しかし、この時、私はもう一つの仕事であるセミの集計のことを忘れていました。調べたセミの大部分はニイニゼミで、セミの中でも雄雌の判断が難しいものでした。案の定、私には性別が全くわからなかったのです。この日だけではニイニゼミの雄雌の判断の技を完全に習得は出来ませんでした。

奉仕活動最終日の8月23日、こんな時にセミの抜け殻などあるだろうか、と疑問に思いつつ採取の手伝いをしました。しかし、これはすぐに覆されました。子供たちは次々とセミの抜け殻を採っていきました。今回はアブラゼミとミンミンゼミが大量に採れ、また1回目には1匹しか取れなかったツクツクボウシが何匹も採れました。ポリ袋いっぱいのアブラゼミとミンミンゼミ。私の班だけであわせて百を越える大収穫でした。1回目に比べニイニゼミはかなり少なく、その代わりにアブラゼミ、ミンミンゼミは約10倍でした。



子どもたちと一緒に自然観察員の説明を聞く学生たち



調査後、高校・大学生と一緒にセミの種類や性別を集計

今回の奉仕活動は、いつもなら習わないような事が多く、私にとって良い経験となりました。そして高校の奉仕活動の授業がこんなにも楽しい活動になるなんて、参加する前の私には思いもよらなかった。

【関連記事2面】

湯島・本郷地区町会連合会副会長(本郷三丁目南部会会長) 鎗田 精康



一昨年の秋、湯島幼稚園の園長から歩きだせば禁止の提案が地元に出されました。それは、子どもの目の高さが大人の指に挟むたばことと同じで、子どもの目に当たるといふ危険からでした。当時、私は入退院を繰り返すほど体調が悪く、サッカー協会通りの「禁止の会」へ出向くことができずにおりました。

昨年1月、順天堂医院に入院中、思わぬ出来事が起きました。科目の違う呼吸器内科の瀬山准教授が私の病床に訊ねて見えて、院内の喫煙禁止はもとより近所の禁止に向けて熱く語り、私に自治会長の一人として協力を求めてまいりました。

退院後、まったく素人の私でしたが、同調する仲間と運動を始めました。区役所への問い合わせ、町内の役員会、総会を通じての啓蒙、さらにはサッカー通りに面した町会への誘いかけを行い、9月に5町会に協力を呼びかけ署名をいただいたのが出発点となりました。

「路上喫煙禁止地区」指定への条件が一応そろいましたが、自らも何か行動を起こすことが必要と、各町会へ自主申告で清掃を行うことを申し合わせました。あわせて近隣の他町会へも加入の話を行いましたところ、新たに6町会の賛同と5企業の署名をいただくことになりました。私より早くから熱心に運動を進めてくれた金花通り商店会の小室茂氏に感謝する次第です。

11月に文京区役所に申請書を提出、今年1月に文京区安心・安全基準を通り、区議会で審議も終わり、正式に湯島・本郷地区路上喫煙禁止地区に指定される運びとなりました。

指定日の6月30日、文京区長を迎えたセレモニーで晴れて私たち11町会や協力企業の思いは達成されました。これまで関係された町会、企業、区役所の皆様に感謝申し上げます。

指定以後、月1回の吸殻拾い、キャンペーン運動、連絡会を通して近隣の友好を深め、清潔な町としての役目を維持したいと願うばかりです。

このたび、環境ネットワーク・文京の副理事長をお引き受けいたしました。かつて環境問題で一緒に勉強した澤谷理事長から打診があり、一度はお断りしたのですが、私の経験が少しでもお役に立てればと思います。

昨年まで20年間、文京区議会議員(議長2回)を務め、現在は不動産コンサルタント(鑑定士)として町づくりに携わっております。議員時代は、環境を守る活動は重要なテーマだと認識し、12年前にはドイツのカイザースラウテン市を視察、ごみの分別・焼却、リサイクルシステム、環境教育などについて同市の議員と意見交換もしました。

皆様のご意見をお聞きし、少しでも理事長や皆様の活動をサポートできればと思いますので、宜しく願い申し上げます。

就任の抱負

東村 昭平・副理事長



「環境学習リーダー育成講座」から

資源収奪社会から資源再生社会への転換

地球環境危機の最大の原因は、増えすぎた人口とそれに伴うエネルギー使用の増加にある。地球の歴史でみると、約5万年まえに新人類が誕生。それまでは豊かな水、新鮮な空気など絶妙なバランスで多様な生命を守り続けてきた。しかし高度に発達した脳、コミュニケーション能力で豊かさを求め鉱物資源、化石燃料、森林資源、湿原資源、生物資源、淡水資源等を地球から収奪、大気気温の上昇などを発生させてきた。その結果、人類自身の生活基盤をも危うくさせてきている。

そこから脱却して、全ての人々が安心して暮らせる社会にするためには、持続可能な社会への転換が急務となる。つまり収奪から循環型への移行が求められる。日本での資源循環に関しては2000年制定の循環型社会形成推進基本法をはじめ、容器包装リサイクル法、家電リサイクル法、食品リサイクル法、建設リサイクル法、自動車リサイクル法などが制定され、施行されている。

また環境負荷低減に有力な手段としてIT技術の活用がある。インターネットを利用したネットワークの広がり、高速ブロードバンド回線の普及などは日常生活を豊かにし、経済活動の基盤を支える通信技術の果たす役割は重要になってきている。ITの利用は人とモノの移動機会を最小化し、大幅なコストダウンをもたらす。たとえば身近にみられるペーパーレス化、待機消費電力の低減など。

現在、わが国日本にとって、なくては困るものを挙げると水、

食糧、エネルギーであるが、水に関しては自給できる可能性はある、食糧は家庭菜園などの活用、エネルギーはバイオエタノールなどの開発でしのげようである。またとくに難しい最大の要因である人口については、幸か不幸か減少していることで救われる。

【9月6日、文京区「環境学習リーダー育成講座」での月尾嘉男・東大名誉教授の講座から(要旨)】



大勢の受講生や聴講生を前に講義する月尾東大名誉教授

【1面からの続き】

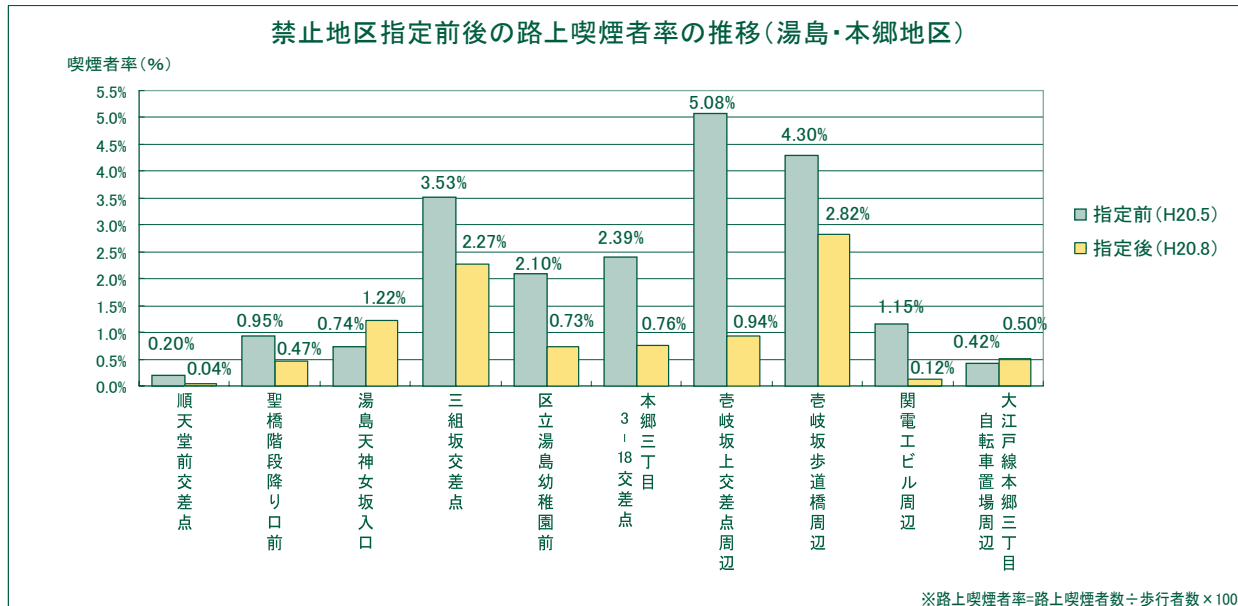
文京学院大学インターンシップ生も参加

「子どもの広場」には文京学院大学の堀田和歌子さん、三塚由美子さん、宇田結さんも参加。「子どもたちのセミや自然に対する関心の強さには驚かされました。私たちも一緒になって楽しむことができ、勉強になりました」と感想を。

本郷2・3丁目、湯島1～4丁目(一部除く)地域を路上喫煙禁止地区に指定しました。

平成20年6月30日に文京区安全・安心まちづくり条例に基づき、本郷2・3丁目、湯島1～4丁目(一部除く)地域を路上喫煙禁止地区として指定しました。指定に当たり、路上喫煙禁止地区の周知・啓発のため、地区内の歩道に路面標示シートや電柱への巻き看板の取付けを行い、ポスター・チラシ等を企業及び関係団体に配布しました。更に地元町会の皆さまやNPO団体等と協働して、周知・啓発街頭キャンペーンを指定日の6月30日から5日間連続延べ18ヶ所で実施しました。

路上喫煙禁止地区指定による効果について、指定前と指定後の歩行者に占める路上喫煙者の割合を調査したところ、指定後は路上喫煙者の割合が大幅に減少していることが判明しました。今後とも皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。



遊びにおいでよ! 第9回 文京エコ・リサイクルフェア

～未来のためにできること「エコリ」で見つけてみませんか?～

日時 平成20年10月25日(土) 10時～15時
会場 教育の森公園

出展団体(出展内容)

○紙すき実演

○廃油でキャンドルづくり

○自然とあそぼう! 「松ぼっくり、どんぐりなどで作品づくり」

○「ごみを減らして、緑を増やそう」生ごみ堆肥の作り方紹介

○環境カルタで遊ぼう!

○みえ～るくと学ぼう!(カッティングカー)新しいごみの分け方と積込体験

○スロー&エコクッキングの実演(保温クッキング)

○「みどりの創造」クイズに答えて苗をもらおう

○リサイクル自転車即売会およびほか展示多数

○フリーマーケット(100店舗予定) ※雨天の場合は中止

○新潟県湯之谷村特産品販売 ほか展示多数

実演時間等、第9回文京エコ・リサイクルフェアについてのお問合せはリサイクル清掃課(☎5803-1135)まで

1	NPO法人緑のごみ銀行(ごみを減らして、緑を増やそう)	
2	リサイクルイン文京(自然とあそぼう!)	
3	文京みどりの推進会(みどりの創造、クイズに答えて苗をもらおう)	
4	お茶大環境科学倶楽部(やってみよう! 家庭にあるものでミニ実験)	
5	小石川植物園・リンゴの木(小石川植物園ボランティア活動スロー&エコクッキング)	
6	逢瀬いなか体験交流協議会(自然にやさしい農業の紹介、実践)	
7	東京都環境衛生事業協同組合 文京支部	
8	文京清掃事務所	(みえ～るくと学ぼう! 新しいごみの分け方と積込体験)
9	新潟県魚沼市・かたつくり(産地直送販売)	
10	文京区消費者の会(紙すき)	
11	東京産業廃棄物協会 女性部(キャンドルづくり)	
12	(おもちゃの修理コーナー)	
13	モノ配慮の会(雑がみの分別の仕方)	
14	オール東京ガス エネスタ文京南	
15	土木課(リサイクル自転車即売会)	
16	環境対策課(環境カルタで遊ぼう!)	
17	広報課(人権擁護街頭啓発)	

このページに関するご連絡・お問い合わせは、文京区役所 資源環境部 環境対策課 環境担当へ

TEL 5803-1276(直通)・FAX 5803-1362

文京区ホームページアドレス <http://www.city.bunkyo.lg.jp/>

日本文化と、環境と

こちらに来て、今、ハマっている趣味があります。それは、書道。幼少期には、姿勢だ、トメだハネだ、と細かいルールに辟易していたのですが、海外で暮らし日本語に飢えた自分には、面白くてたまりません。思いのままに文字を書くことで、今の自分の精神状態を発見できます。自分でもつかみきれなかった複雑な深層心理が書道によってスルスルと導き出され、とても楽しく、心がすっきり。この趣味は当分続きそうです。

豪州では、学生も会社員も主婦も、皆様々な趣味を持ち、驚いたことに多種多様な日本文化が浸透しています。例えばマレーシア人の同僚は合気道2段の腕前で盆栽が趣味。また、英語の先生（オーストラリア人）は居合道3段で、日本文化・日本語に精通。そして非常に興味深いことに、こうして日本文化を趣味としている友人は、生活が極めて質素・儉約・清潔なのです。それは時に、私に両親の後姿を想わせます。

その合気道・居合道を見学し気付いたのは、技の多さとその一つ一つに込められた、こと細かな状況設定とその状況への対応というストーリー性です。ストーリーの流れに乗せて美しく技をきめていく姿に、「ああ、書道と一緒にのだな」と感じました。技も書も、その中にこと細かなルールがあるけれど、流れに乗らずに止まってしまつては、美しく正しいものにならない。これが日本文化の精髓なのではなかろうか、と思ひ至りました。ルールばかりに気をとられると、窮屈な毎日になってしまう。しかし、きちんと、それらを流れに乗せて、自然体の中に包み込んで暮らしていくことで、おのずと清楚に美しく正しい方向へ道が流れる。それが日本文化であり、日本人の生活だったのではないかと。2人の外国人の袴姿に、美しき日本を想い、そんな日本に生まれたことを嬉しく思うのでした。

新江戸川公園でブルーギルが大量繁殖 関台小、お茶大小の児童らが文京初の外来魚調査

「君を特別調査隊員に命ずる」――。そう言って首に調査員の札をかけてやると、子どもたちは目を輝かせ、われ先に調査を始めた。6月7日と7月20日の2回、新江戸川公園で文京区初の外来魚調査を行った。川や水辺の環境と生態系の保全を願う「神田川ネットワーク」（ENBも加入している）が、在来生態系を乱す原因となっている外来魚の実態を知るために実施したものだ。

調査方法は釣り。この方法は環境に与えるダメージが少なく、駆除も同時にでき、そのうえ釣り好きにはたまらない。都内の川や池はたいてい釣り禁止だが、この日ばかりは区の許可を得て堂々と「調査」ができる。第1回は関台町小学校の児童が5〜6人飛び入り参加し大活躍【写真上】。その結果を環境展で展示したところ、第2回にはお茶の水女子大学附属小学校の児童が家族で参加してくれた。東大の研究者との年齢を超えた共同調査ならぬ“競争調査”が熱を帯び、お母さんまでミミズ探しに大奮闘。

釣果は1回目が222尾、猛暑の2回目は135尾、ブラックバスは確認できず、クチボソ2尾を除きすべてブルーギル【写真下】だった（小型の在来種が掛かりにくい針を選んだ）。この数は井の頭公園での結果と比べてはるかに少なく、ヌマチチブやクチボソなどの在来種が目視で多数確認された。今回ギルの稚魚をかなり駆除したが、繁殖力が強いので、「神田川ネットワーク」では文京区に今後の継続調査を進言している。（ENB会員・藤原美佐子）



トピックス

シリーズ 人間の環 ③

— 環境学習は根幹である —

多くの小中学校には環境学習の機会があると聞く。数年前の東京23区とことん討論会での政府の方の発言によると、それは独立の教科ではなく根幹であるようだ。恐らく学校の授業だけでは限界があるだろう。一方、地域に目を向けると各種団体の環境学習プログラムがたくさんある。これらを子どもたちが自身の状況にうまく合わせて参加する仕組みが期待される。

その一つのモデルが地域学び推進機構が実施するポイントラリーという事業だ。その本質は地域プログラムのポータルサイト。そこには教科学習・文化とスポーツ・市民生活・職業理解が含まれる。この事業立ち上げの主メンバーが環境学習関係の市民団体に属することを知った。やはり環境学習は根幹なのである。

その事業運営で交流を持ったお一人が江東区の磯谷美栄さん。東京湾中央防波堤外最終処理場の見学の機会を与えてくれた。お茶の水女子大学の環境科学倶楽部のメンバーも同行した。その処理場の残り少ないことに驚いた。あと何年で満杯になるのだろう。その調査結果を「知恵の環 ねっと」22号(2006.11.20)に掲載した。現場に立つことは動機へと繋がるのだ。（お茶の水女子大学大学院 准教授・森 義仁）

◆情報コーナー

● みんな集まれ!! 子どもの広場 ●

*第22回 ひげ博士の環境科学教室（担当 金井）

◆日時：10月4日（土）10：00～12：00

◆会場：お茶の水女子大学

*第24回 ネイチャーゲーム（担当 坂本）

◆日時：10月18日（土）10：00～12：00

◆会場：小石川植物園

*第26回 秋の自然観察会（担当 田邊）

◆日時：11月8日（土）10：00～12：30

◆会場：小石川植物園

*第29回 不忍池 渡り鳥観察会

◆日時：12月6日（土）10：00～12：30

◆会場：不忍池周辺

【お申し込み】ENB（それぞれの担当）

・メール：kodomonohiroba2007@gmail.com

・詳細は <http://www.en-bunkyo.org> をご覧ください

◆ENB伝言板

● 文京学院大学のインターンシップ生が活躍

この夏、文京学院大学の学生がENBで活躍しました。三塚由美子さん（外国語学部3年）、宇田結さん（同）、渡辺真衣さん（経営学部3年）、堀田和歌子さん（同）の4人で、「子どもの広場」や「育成講座」などの行事に積極的に参加し、運営・進行をサポートしていただきました。

● 新入会員紹介

このたび、日本音楽療法学会正会員で文筆業の田口静子さんが入会されました。田口さんは、「温暖化が進むこの時にENBの活動は大事なこと。私も環境や水の問題を訴え、お役に立ちたい」と抱負を語っています。

編集雑感

○ … 夏休みの「子どもの広場」に同行、セミの抜け殻を探し求める子らの姿に、ひと時、心が癒されました。同じ夏でも、初めと終わりでは雲の動きや風に変化があるように、セミもニイニゼミからミンミンゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシへと移っていくのが分かります。

○ … 民間気象会社の発表によると、生息北限が関東南部までとされていたクマゼミが、北関東や新潟県南部でも確認されました。温暖化の影響でクマゼミも北上中！ 間もなく子どもたちが、クマゼミの抜け殻を発見できる日も。（花）